

甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価書

令和 5 年 2 月 2 2 日（水）

（玉幡中学校）学校関係者評価委員会作成

第 2 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 5 年 1 月 3 0 日（月）午後 7 時～

会 場：玉幡中学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員；新海賢一，太田節子，望月智和，望月 守，名執和憲
学校側；校長：山本成利，教頭：雨宮 実，教務：三井 久，生指：坂本誠一

I 学校側から提案された内容

- ・学校の全体の様子
- ・自己評価結果の説明
- ・生徒指導に関わる取組状況について

II 協議された主な内容(出された意見等)

- ・教職員による自己評価の集計結果及び生徒・保護者アンケートの集計結果をもとに項目ごと結果分析，考察，改善策を提案し，質問，意見，アドバイスをいただいた。
- ・今日的教育課題，本校における課題について意見をいただき，本校の実態把握及び共通理解のもと，次年度に向けての方策や今後の方向性について意見をいただいた。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員，保護者，生徒アンケートをもとに考察し文章にまとめて提示した。

II 特 徴

I．学校教育目標に関して・学校経営について

II．学校運営について

III．学習指導について

IV．生徒指導について

V．地域との連携について

VI．学校の特色に関して

VII．創甲斐教育について

以上，七つの項目について達成状況や改善策を示した。これについて以下のような意見が出された。

- ・多忙化解消，働き方改革，部活動の地域移行など多くの課題が山積する中で，生徒，保護者，教師から肯定的な意見が多くあったことは，適切な学校運営であったと評価できる。
- ・夕学への取組を通して，学習習慣が身につくとともに学力向上も図ることができている。また，小中連携して取り組んでいることは大変素晴らしい。

- ・やりとり帳などを通して、生徒と教師のよりよい信頼関係が築けており、内容について先生方の温かいコメントが多く頭が下がる。
- ・生徒が地域の中で困っている人を率先して助けたといった話が複数あり、うれしくそして頼もしく感じた。
- ・学校生活が楽しいという意見が多くあったことは、良い傾向である。
- ・P T A 健全育成講演会「左手一本のシュート」は、多くのことを学べる貴重な機会であった。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ①多忙化解消，働き方改革，部活動の地域移行など取り組むべき課題は山積しているが，一つ一つのことに誠実に対応している。これからも継続して欲しい。
- ②教職員の研修の機会を確保し，一人一台端末の活用をさらに推進し，学習道具として扱えるように取り組んで欲しい。
- ③生徒のクロームブックへの関心も高く，今後この部分を伸ばし，学力向上につながるような授業の取り組みができるようになってほしい。
- ④おおむね学校生活は落ち着いていて，良い環境であると感じる。一人ひとりの生徒を大切にする教育活動を実践し，今後も臨機応変に柔軟な対応で学校生活を維持してほしい。そのために ICT の活用は今後ますます必須となり，教職員の負担が増すこととなるので，補助教員など専門性の知識を持つ人材の必要性を感じる。
- ⑤2 学期の学園祭，合唱祭の取り組みについて，保護者の方々からは好意的な意見や話を聞くことができた。学校の取り組みの成果だと思う。
- ⑥コロナの影響で教職員も生徒たちも制限の多い日常のなか，感染対策を行う中での教育活動の推進に，教職員の苦勞の程がうかがえる。まずは教職員の方々の体を大切にしてほしい。

※特記事項

- ・甲斐市教育委員会指定「甲斐市生き生き学ぶ学級づくり推進事業」
 - ・今年度は，甲斐市より生き生き学ぶ学級づくり推進事業の指定を受けて教育活動の基盤となる学級づくり集団づくりに取り組んできた。
- 研究指定ではなくなったが，玉幡中学校区小中連携教育推進事業を継続している。玉幡中学校区の小中学校の教職員が，小中学校9カ年間を見通した学習や生徒指導のあり方について，菊池省三先生を招聘して授業提案や講話などを通して多くのことを学ぶことができた。また，中学校生徒が小学校に出前授業に出向き，中学校生活に夢や希望を持ってもらえるように努めた。

記載責任者（甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価委員）氏名：新海 賢一 印